

• 「国・行政のあり方懇談会」全体を通してのメッセージ

このような機会を頂けたことを感謝致します。一方で、本会の目的が最後まで分からず、どういった貢献をすべきか大変悩みました。

一つの理由として、**内閣府でこの会を運営している方々のコミットメントがなかなか見えず、単に会を進行したり、資料をまとめていただくだけになっているのが非常にもったいない！**と思いました。私としては、1 参加者として参加している内閣府の官僚の方々にも意見があると思いますし、それを是非聞きたかった。**先週の英国財務省へ出向された方のプレゼンテーションが初めて、最も切実に、官僚の方々が感じている「おかしい」を表現されたものだった**ように感じます。再三、会の中で、内閣府の方に訴えかける発言をさせていただいたのは、皆さんに自分が感じている「おかしい」を表現していただきたかったからです。それを正直に、机の上に出して、初めて、議論は深掘できると感じています。今回、この会で私はそこにどうしても到達できなかったことが悔しかったです。

全ての改革、変革、変化は、「問題意識を感じている当事者」による、強いモチベーションからスタートします。日本では、3.11以降、こうしたモチベーションを強く持つ過程のことを、「**自分ごととして考える**」という言葉で表現されるようになりましたが、私はそれを内閣府のこの懇親会の中で見いだしたかったのですが、なかなか難しかったと感じています。いつも周囲に取り囲む形で座っていらっしゃった官僚の皆さんは、何を感じていて、どういう変化を起こすことができると期待されているのでしょうか？

HUB Tokyo 榎屋からのメッセージ 2

このような問題意識から、もし次にこのような会をされる際は、より少しでも多くの官僚の方々が、部署や部門を問わず参加でき、また、立場を離れて、素直な意見を言うことができるような会として、実施していただければ、実り多いものになると思います。もしそのような会が「公開」することでやりにくいのであれば、公開するということを選択しなくても良いと思います。それは、この会が本当に議論しなければならないことを議論する上で、必要な選択肢だと考えます。

私は、自分の時間を使って、いかに多くの人が、「自分のリミットから解き放たれて、自由に思考できるような状態になる」ことができるかを、自分の仕事が出す効果だと考えていますが、この点において、今回の会では、内閣府のみなさんのマインドセットにふれあうことができず、私は自分が果たすべき役割を果たすことができませんでした。（申し訳ありませんでした・・・）

今回のような会を開催し、有識者を集めた上で、かなりハイレベルな情報やディスカッションをリードしていただいたことに感謝しますし、このような会が次にも発生することを強く望みます。ですが、次回もし同じような会が発生する場合は、**ぜひ皆様自身が「イントラプレナー（組織内の変革者）」である**ことを理解していただき、その中から出てくるアイデアをぜひ摘み取り、組織の中の意思決定プロセスに活かしていただきたいと、強く願います。

HUB Tokyo 榎屋からのメッセージ 3

- 本会の内容に感心を持ち、フォローしている方々へのメッセージ

本会の内容に感心を持っていたいている方々に大変感謝します。

私は、このような会に出席する機会をいただき恵まれた立場にしながら、所用があり、限られた回数しか参加できませんでしたが、その回数の中でも、非常に有意義な意見を沢山聞きましたし、大変興味深い議論が多々されました。多角的な視点や様々な確度からのアプローチは、勉強になるものばかりでした。

わたしからの提案は、本会のような多角的な議論ができる会合を、もっとカジュアルに、皆さんの職場、食卓、団欒の場、コミュニティの場、でもできるようにしてはどうか、ということです。

この会の本質的な意義は、正しいデータ、多角的な内容のプレゼンテーションを元に、こうした議論の場を持ち、1人1人が深く考えた、ということだったと感じています。同じことが、皆さんの周りでも、1回でも多く、1人でも多く、発生したとしたら、その数は非常に大きくなり、社会の課題について考え行動に移す方々が増えるきっかけになるに違いありません。

内閣府の方々がまとめた資料は非常に貴重な資料ばかりで、しかも大変よくまとめられています。ぜひ、この資料を使って、周りの方と議論してみただけでないでしょうか？

HUB Tokyo 榎屋からのメッセージ 4

- 本会からのアウトプットへの提案

本会のアウトプットとして、

【日本社会の課題を考える、日本全土の「日本のあり方議論カフェ」運動】として、日本中に、このような資料・議論のフォーマットが広まるように、拡散してはどうでしょうか？

藤城さんが最終的に編み出された、①トピックのキュレーション、②個別課題に関するデータや考え方のプレゼンテーション一式、③グラフィックレコーディングを用いた議論のフォーマット、の3つは、全て素晴らしいものばかりです。

これらを、より多くの方に経験していただけるように、「日本のあり方議論カフェ」（仮名）という形でパッケージ化し、学校・職場・家庭・友人やコミュニティとの団欒の場、等で、議論しワークショップを誰でも手軽にできるようなツールキットとして、配布してはどうでしょうか？

全ての活動が、グラフィックレコーディングで記録されることによって、ゆくゆくは全ての議論がデータとして集められ、どのようにカフェが行われているか、どのような意見が生まれているか、どのような点がより深く理解されているか、どのような点が国民には理解されにくいのか、などが、分析できるようになると思います。また、意識の高い国民の方々の総意も見えてくると思います。

HUB Tokyo 榎屋からのメッセージ 5

・ アウトプット案 「日本のあり方議論カフェ」

案としてださせていただきましたが、「日本のあり方議論カフェ」の参考になる、私たちの活動をご紹介します。NYを拠点とし、社会的起業家に投資をするファンドとして活動している「ACUMEN」と共にコラボし、彼らが世界中で行っているオンラインコースの勉強会を、HUB Tokyoで実施しています。（右写真参照）

<http://hubtokyo.com/acumen-course-leadership/>

私が考える「日本のあり方議論カフェ」の仕組みは、以下です。

- ・ 登録した人に資料が配布され、近々行われる勉強会の日時・場所情報が流れる
- ・ 出席したい人たちは資料を事前に読んできて、思い思いに議論する
- ・ 資料には議論するポイントなども記載されている
- ・ 最終的に考え方などを提出したり、他にも同じ活動をしている人たちとオンラインで繋がることができる。
- ・ 友人や自分の所属するコミュニティなど共に、この勉強会を行う場合、登録することができ、周辺に住んでいる人などがその情報を受け取り、参加することができる

こうして気軽に誰もがができるような会を、多数普及させることで、国民全体の意識と情報共有を向上させることができると考えています。

ぜひ、検討してください。

↓東京での実施の様子



世界の他の場所での実施の様子

